おわりに

Vyattaは，それ自身でルータとしての機能が十分あるだけでなく，ファイアウォール機能，Webプロキシーなど，さまざまな機能を標準的に持ち合わせています。ネットワークを作る立場からすればVy a ttaはまるで宝箱のようなものです。結果として，Vyattaは，そのままでも現用のネットワークの一部として活用できますし，実験用ネットワークを構成するために使うことも可能で，配付されているそのままの状態で十分活用できます。

しかし，Vyattaの本質はそれだけではありません。

冒頭でも述べたようにVyattaがネットワークコンポーネントとして稼働するにあたり，実際の処理のほとんどはオープンソースソフトウェアを使用します。これらはどれも皆さんがよく知っているソフトウェアです。つまり，オープンソフトウェアの集合体とも言えます。これらを統括するのが，Vyattaが開発した基盤ソフトウェアと言い換えることができます。この基盤ソフトウェアは，いろいろなソフトウェアを取り込む能力を持ち合わせています。これは，新たなソフトウェアが出現した場合でも同じです。たとえば，あなたが作ったオープンソースソフトウェアをVyattaに取り込むことも可能になるのです。

本書では，まずはVyattaの基本的な動作，そして機能を理解していただくことに注力しました。これは，今後も拡張されていくであろうVyattaの基本構造を理解し，その柔軟さと拡張性を理解していただくためです。その先にあるのは，読者の皆さん自身がVyattaを拡張し，新たなネットワークコンポーネントを作り上げていくという可能性です。

本書の内容が読者の皆さんのアイディアに火をつけ，新しいネットワークを作り出していく一助になればと願っています。